

プログラム番号

07009

## 平成19年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

## 【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	京都工芸繊維大学 工芸科学研究科		
②学長名	江島義道		
③所在地	〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	国際企画課 国際第二係長	
	担当者氏名	小倉隆志	e-mailアドレス ab7131a@jim.kit.ac.jp
	電話・FAX番号	075-724-7126 075-724-7710	
⑤ホームページURL	http://www.kit.ac.jp		
⑥大学院在学留学生数	77人(うち、国費留学生 23人)		

## 【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	ネットワーク形成を重視した国際科学技術コース
②プログラムの形態	一貫制(4年)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が単数
④実施研究科・専攻	工芸科学研究科 先端ファイブ科学専攻
	(所在地)京都市左京区松ヶ崎橋上町1
⑤連携大学・研究科・専攻名	【工芸科学研究科博士前期課程】応用生物学専攻・生体分子工学専攻・高分子機能工学専攻・物質工学専攻・電子システム工学専攻・情報工学専攻・機械システム工学専攻・デザイン経営工学専攻・造形工学専攻・デザイン科学専攻・建築設計学専攻 【工芸科学研究科博士後期課程】生命物質科学専攻・設計工学専攻・造形科学専攻
⑥受入れ学生数	20人(うち研究留学生優先配置人数: 5人) (うち日本人学生数: 10人)
⑦担当教員数	合計 252人(うち専任: 211人、兼任: 15人、非常勤: 26人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 工芸科学研究科長
	研究科長名 柴山潔

### 【3. プログラムの内容】

#### 【本プログラムの趣旨】

京都工芸繊維大学は、＜21世紀の個性的な産業と文化を創出する『感性豊かな国際的工芸系大学』づくり＞を目指し、「世界で活躍できる確かな力量と豊かな感性を備えた人材の育成」に取り組んでいる。工芸科学研究科全体で展開する本プログラムは、発展途上国における将来の科学技術発展を担う人材育成を推進し、次世代におけるわが国と各国との社会的・産業的連携の強化を目指すものである。とりわけ、これまで長年にわたって重点的に交流を続け、信頼関係を構築してきたベトナム、タイの協定校に特に重点を置いて留学生の受入れを行なうことで、留学生のニーズを的確に把握し、真に必要とされる教育・研究指導を行なう。

#### 【内容及び特色】

##### ①学生の多様なニーズに対応できる幅広い分野での英語による高度な専門教育

本プログラムは工芸科学研究科の全専攻（博士前期課程12専攻、博士後期課程4専攻）で開講し、留学生はすべて英語での授業科目履修、研究を行うこととなる。

募集対象となる出身大学（協定校）の指導教員もアカデミック・アドバイザーとして関与することにより、個々の学生のバックグラウンドやニーズ、キャリアデザインに合わせ、カスタマイズが可能な教育指導体制をとる。2年間の博士前期（修士）課程に引き続き、博士後期課程を2年次で修了することを目指す。

##### ②次世代を担うリーダーの養成／学生のキャリア形成に資するカリキュラム

本プログラムにおいては、それぞれの分野での専門性を高めることはもちろん、将来、指導的研究者・技術者となる人材を育成するべく、管理・経営能力の向上をカリキュラムに組み込んでいる。具体的には、リーダーシップ育成のための「プロジェクトマネジメント」特別授業を必修とし、各国の大学・研究機関や企業等の次世代を担うに相応しい人材を育成する。

また、国内の企業や研究機関等でのインターンシップを必修科目とする。さらに、博士前期課程においてはTAを、博士後期課程においてはRAを体験させることにより、国際的な教育研究の現場での経験を積み、将来の指導的立場となるための準備を行わせる。

##### ③日本人学生との交流／異文化理解の促進

本プログラムに所属する留学生は、以下の各事業により、日本人学生との十分な交流・共修を行う。

- ・ TA、RAにより、留学生は日本人の学部生・大学院生と修学面で交流する機会を得る。
- ・ 履修が推奨される科目として、異文化リテラシープログラム「京の伝統工芸」がある。本学の特色を集約しているこのプログラムを通じ、留学生は他専攻の日本人学生とともに、日本のものづくりの歴史・文化・技術に直に触れ、専門分野の範疇を超えた経験を積むことができる。
- ・ 日本人大大学院生が国際コースのチューターとして就学面のみならず生活面でも留学生を支援することにより、より自然な交流が図られる他、日常生活面でのサポート体制の一環として、本学国際交流会館（留学生用宿舎）のチューター（日本人学生）がサポートに当たる。

#### 【教育・指導体制】

工芸科学研究科と国際交流センターの連携による国際科学技術コース推進委員会と学内担当部局が有機的に連携し、本プログラムの留学生の入学選抜、受入れ、在学中の修学支援、生活支援、修了後のフォローアップにいたるまでのケアを行なう。

論文研究においては、主任指導教員の他に副主任指導教員として本学の他の研究室の専任教員を1名置くとともに、母国の出身大学の教員1名をアドバイザーとして置く。これにより、留学生の履修履歴、志望キャリアに配慮してカスタマイズした学修プランを作成する体制を構築する。また、論文作成にあたっては、「論文指導チューター（大学院生）」を配備する。

## 【使用言語】

講義や研究指導は、すべて英語で行なう。ただし、学外でのインターンシップなどに備え、留学生が日本語を修得する機会も十分に提供する。

## 【募集方法】

優先配置枠については、ベトナム及びタイの2カ国の協定校を中心に募集し、書類審査および口頭試問により審査する。

その他、全国各地域の優秀な学生を私費留学生として受入れる。

## 【修了後のフォローアップ体制】

- 本プログラム修了者は、大学等の高等教育機関における教員や、企業における基幹技術者あるいは研究員となることが想定される。本学の特色である、感性を重視した人間性及び創造性との協働などを特に意識した「新しい実学」の教育成果を体得し、既存の工学にはない新時代対応型の教育研究者、技術者としての道を開くことができる。また、プログラムを通じて構築される人的ネットワークや異文化リテラシー向上によって、真にグローバルな視野に立つことのできる人材となることが期待できる。
- 本プログラムの修了者は KIT International Academic Exchange Club (KIT 国際学術交流クラブ) のネットワークに加わり、本学と各協定校、各国とのパイプをさらに強固なものにする役割を担うことが期待できる。例えば、留学フェアやシンポジウムなどに際して、指導教員や大学を訪問する機会が得られるなど、様々なフォローアップ体制が取られる。高等教育機関に復帰した修了者は、国際基幹技術者養成プログラムにおけるディスパッチ教育提携担当者として、産業界に進んだ修了者は、同プログラムで展開する国際インターンシップにおける受入れ企業等として、実質的な交流を継続し、開設したネットワークを双方が実際に長期間利用できるシステムを維持する。

## ネットワーク形成を重視した国際科学技術コース

